

ユニセフ兵庫ニュース Wish

世界の子どもたちのために

vol. **67**
2022年5月号



©UNICEF/UN0610980

ユニセフが難民受け入れセンターの中に設置した「子どもにやさしい空間」で遊ぶ3歳の子ども。(モルドバ)

CONTENTS

兵庫県ユニセフ協会設立20周年記念企画2

2 黒木会長と一緒に振り返る20年

EVENT REPORT

3 設立20周年記念 安田菜津紀さん講演会

4-5 第20回ユニセフのつどい

6 活動ファイル 2022年1月～4月

7 Pick Up Report / Information

8 お知らせ

20TH ANNIVERSARY



兵庫県ユニセフ協会
設立20周年記念企画

2

黒木会長と 一緒に振り返る20年

兵庫県ユニセフ協会は今年20周年を迎えました。

「できる人ができる事をできる時に」をモットーに、

活動を共にしたボランティアは20年間で約400人。

5月号のWishでは兵庫県ユニセフ協会会長からの

挨拶を通して20年を振り返ります。



地域との接点を広げ、 深めてきた20年

兵庫県ユニセフ協会会長

黒木 稔

県下におけるユニセフの取り組みは、コープこうべの組合員活動の一環としてスタートしました。その推進母体が当協会の前身である兵庫県支部にゆだねられて、今年で20年になります。独立した体制での第一歩は、新しい活動の担い手であるボランティアのみなさんとともに、地域社会との接点を広げ、深めることから始まりました。

幸い、日本生活協同組合連合会会長の竹本さんを初代会長に迎えたことで、各方面からのご協力・ご支援を受ける上で大きな力になったと思っております。竹本さんは被爆者であるご自分の体験を踏まえてユニセフの実践活動にも幅広くかわり、ボランティアのみなさんをはじめ多くの人たちの共感を得てこられました。残念ながらコロナ禍の一昨年帰らぬ人となりましたが、その功績は長く記憶にとどめておかなければなりません。

実務面では、ボランティアのみなさんの活動の舞台づくりに努めてきた福井事務局長の働きに特筆すべきものがあります。今日、

大学生から小学生に至るまでの若い人たちがユニセフ活動に参加して生き生きと活躍するようになったのは、各行事の企画運営にあたっての事務局長の非凡な努力のおかげとすべきでしょう。歴史の節目に当たり、その功績をしっかりと評価し顕彰しておきたいと思っております。

現在、新型コロナ問題が長引く中で、当協会も本来のかたちでの活動が展開しにくい状況ではありますが、世界の子どもの幸せの実現を願いつつ、これからもさらに力強く活動を推進していけることを願っております。理事、監事、評議員のみなさまをはじめ、関係諸団体や企業、そして何よりも活動の直接の担い手であるボランティアのみなさんに、引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

第20回 ユニセフ のつどい

Unicef Festival



ユニセフのつどいは、子どもたちの未来をつくる兵庫県ユニセフ協会のお祭り、今年も20回目を迎える記念のお祭りです。6日はオンライン、12日は会場とオンラインで開催しました。

6日の活動紹介リレートーク&ワイワイ交流会では、話題提供者の話の後、3回のグループセッションを行いました。

12日は、(公財)日本ユニセフ協会専務理事の早水研さんからオンラインで祝辞をいただき、個人や団体への感謝状の贈呈もありました。会場の皆様には20周年記念クリアファイルに資料を入れてお渡ししました。

新たに制作された20年を振り返る動画上映、講演会、アフリカ太鼓の演奏、支援につながるお買い物、交流、学び、喜びあふれる2日間でした。

これまで支えてくださった皆様に感謝の気持ちを込めてつどいの様子をお伝えします。

Data イベントデータ

■ 3月6日(日)

会場 オンライン
参加者 35人
・活動紹介リレートーク&ワイワイ交流会

■ 3月12日(土)

会場 コープこうべ生活文化センター(神戸市東灘区) / オンライン
参加者 130人
・兵庫県ユニセフ協会設立20周年を記念して
・講演会
「子どもがまん中」地球のどこで生まれても～アジアでそして日本で～
・パフォーマンス
大地の鼓動～ンゴマアフリカン
・マルシェ

募金報告

2020年度に兵庫県ユニセフ協会を通じて寄せられた募金総額は2892万1994円に上りました。また外国コインでもご協力いただきました。ありがとうございました

活動紹介 リレートーク & ワイワイ 交流会

話題提供者紹介



田賀朋子さん
ジャムタン

セネガルでの青年海外協力隊の活動をきっかけに、現地の仕立屋さんがアフリカの布で作った洋服やトートバッグを輸入販売している。アフリカの魅力を発信するとともに現地の人との対等なつながりを大切にしている。



とわり 永遠瑠マリルイズさん
NPO 法人ルワンダの教育を考える会

内戦を体験し29年前にルワンダから日本へ。子どもたちに学ぶ機会をと「ルワンダの教育を考える会」を立ち上げる。子どもたちの学びは明日への未来につながる。今はウクライナ・ロシアの状況に胸を痛め眠れずにいる。



福谷真知子さん
NGO ネパール虹の家

2015年ネパール地震で被災した子どもたちのために復興コミュニティづくりと学校教育支援を行ってきた。今後は女性自立支援を重点に、有機栽培農業などで食を支え、食と職をネパールに根付かせることを目標としている。



高須知穂さん
タリン大学大学院生

ユニセフボランティアユニーズ OG で現在エストニアに留学中。国内外での勉強、仕事、自身の生きづらさの経験を通じて、「人の基礎となる『教育』の大事さ」を実感。人生をその人らしく生きるための教育について研究中。



大津司郎さん
ジャーナリスト

映像を通じて長年アフリカを紹介。難民、貧困、資源争奪、紛争など、世界のあらゆる問題が凝縮されているアフリカを知らずして世界を語りえない。紛争、アフリカ、メディア、3つの視点から議論していきたい。

講演会 子どもがまん中 地球のどこで生まれても ～アジアでそして日本で～



浜田さんは1985年から1992年、日本ユニセフ協会の職員として働いていました。その間の1989年に国連総会で「子どもの権利条約」が採択されました。

子どもの権利条約は「子どもにとって何が一番大切」で子どもをどのように支援するべきかを示した「国際的な決まり」です。ユニセフも当初は子どもの保護、5歳未満の生存率改善や栄養・医療・教育支援を推進していましたが、1996年頃から「子どもの権利条約」の理念である「尊厳ある人としての子ども」を前面にして活動しています。子どもの権利の主人公は子ども自身、子どもが真ん中にあります。

浜田さんがバングラデシュで出会った路上で商いをしているストリートチルドレンに、「お釣りはいらぬ」と言ったら、それを拒否されました。彼らは自分の力で現在を生きており、尊厳あ



浜田 進士さん

子どもの権利条約総合研究所関西事務所長。子どもの権利条約関西ネットワーク共同代表。自立援助ホームあらんの家&ミモザの家統括施設長。

る存在でした。また、保護のため施設に連れて行かれた子どもたちの何人かは、すぐに逃げ出してしまいました。彼らは仲間と自分自身の安らげる場所を大切に考えているのです。

子どもたちに良かれという大人の思い込みは、子どもたちの考えと同じではないのです。子どもの事は子どもに聞いてみないと分かりません。日本の自治体でも、子どもの声を聴き、子どもに関する条例を制定する子どもにやさしい街づくりが始まっています。

大西さんは伝統打楽器と独自の楽器にアコースティックギターなども加えて、アフリカンスタイルのオリジナルティ溢れるライブを展開しています。太鼓修行のために暮らしたアフリカでの体験は、一人ひとりに与えられた命の役割を全うすることの大切さを大西さんに教えてく

れました。人間が本来持っているポジティブなエネルギーをみんなで積み重ねていこうというメッセージのこもった、アフリカの大地から湧き上がってくるような太鼓の響きは私たちの心を解き放ってくれました。

パフォーマンス 大地の鼓動 ～ンゴマアフリカン

まさや
大西 匡哉さん

ケニア伝統太鼓ンゴマ・ンネ奏者。ドゥルマ民族の村で伝統文化継承者スワレ・マテラ・マサイ氏に8年間師事。



マルシェ参加団体紹介



石光商事株式会社

規格外の豆でフードロス削減を。コーヒーの売り上げはユニセフ募金に。



マゴンスクールを支える会

マゴンスクールで作ったバッグやビーズ小物などアフリカ雑貨を販売。



ミャンマー関西

シェグニ孤児院の子どもたちの絵のTシャツとクリアファイルを販売。



バオバブ

就労継続支援A型事業所でアフリカ布の雑貨やスワイスキットを作り販売。



NGO ネパール虹の家

現地女性グループ作製のバッグ、コースターなどネパールグッズを販売。



NPO 法人ルワンダの教育を考える会

ルワンダのコーヒーや紅茶、マリールイスさんの著書などを販売。

1 学習会活動報告レポート



昨年はコロナ禍ゆえ学習会の申し込みが減っていましたが、後半の9月頃から増え始め学習チームはうれしい悲鳴をあげつつ東奔西走しました。神戸市内はもとより、吹田、

尼崎、猪名川、宝塚、芦屋、西宮、丹波、宍粟、たつの、姫路、稲美などなど。3～4人の小グループから学校の150人位の集団までその規模はさまざまですが、皆さんとても熱心に耳を傾けてくださり、うれしく思いました。

直近の子どもを取り巻く情勢をみると、紛争地域の子どもたちやコロナ禍の子どもたちなど問題は山積みです。ユニセフ学習会を通じて、私たちにできることや平和を考えるヒントが見つければと思っています。

「すべての子どもに・・・を」にあなたはどんな言葉を入れますか？
(樋口陽子)

2 平和学習会 核兵器禁止条約発効から1年を経て

日時 2022年1月26日(水)
会場 兵庫県民会館(神戸市中央区) / オンライン
講師 川崎哲さん
(ICAN 会長、ピースポート共同代表)

参加者 53人

昨年1月に発効された核兵器禁止条約は、核兵器を非人道的な兵器として全面的に禁止した条約です。日本は署名していませんが、世論の80%以上や、「議員ウォッチ」によると国会議員の50%が、日本の第1回締約国会議へのオブザーバー参加に賛同しています。

核兵器禁止から廃絶へ、世界は新たな段階に進んでいます。

3 丹波篠山つながろうフェスタ2022

日時 2022年4月17日(日)
場所 四季の森会館

SDGs(持続可能な開発目標)をテーマにしたイベントに参加。ポスター展示やクイズから、SDGsの目標16「平和と公平をすべての人に」をわかりやすく紹介し、自分の事として考えてもらいました。



Activities File 活動ファイル

兵庫県ユニセフ協会の活動履歴

2022年1月～4月

活 動 一 覧

Activities List

開催方法 (O)…オンライン (H)…ハイブリッド(会場/オンライン)

学習会一覧

| 月日 | 訪問先 | 対象 | 人数 |
|-------|------------------|-------|-----|
| 1月11日 | 深江コープ委員会 | 大人 | 7 |
| 1月12日 | 姫路南コープ委員会 | 大人 | 17 |
| 1月13日 | 吹田南コープ委員会 | 大人 | 9 |
| 1月18日 | アハハビコープ委員会(たつの市) | 大人 | 4 |
| 2月7日 | 神戸市教育委員会(O) | 教員 | 294 |
| 2月14日 | 太子コープ委員会 | 大人 | 12 |
| 2月25日 | 芦屋市立朝日ヶ丘小学校 | 小学3年生 | 56 |
| 3月9日 | 姫路コープ委員会 | 大人 | 13 |

地域活動一覧

*ブース出展

| 月日 | イベント名 | |
|-------|--|-------|
| 1月26日 | 平和学習会「核兵器禁止条約発効から1年を経て」(神戸市) | (H) |
| 2月13日 | 2022ユニセフカップ 神戸バレンタイン・ラブラン | |
| 2月20日 | 設立20周年記念安田菜津紀さん講演会 「写真で伝える命の重み・多様性、人権を子どもたちの姿から考える」 | (O) |
| 3月6日 | 第20回ユニセフのつどい | (O) |
| 3月12日 | 第20回ユニセフのつどい | (H) * |
| 4月16日 | 設立20周年記念長倉洋海さん講演会 「四角いぼくたちとまあるい地球」 | |
| 4月17日 | 丹波篠山つながろうフェスタ2022 | * |
| 4月29日 | 世界の子どものことを知ろう ～外国コイン仕分けを通して～ | |
| 4月30日 | 豊かな海と未来を考える2022(明石市) | |

募金一覧

2021年11月～2022年2月

学校・団体名

(株)産業経済新聞社、いなみ野学園第48回いなみ野祭実行委員会、ガールスカウト兵庫県第25団、A-BridgeCUP事務局、(株)甲南エステート、(社福)イエス団友愛幼稚園、湊ハマ株式会社
ご協力ありがとうございました。(兵庫県ユニセフ協会関係分 敬称略、順不同)

Pick Up Report

ユースがつなぐケニアと日本

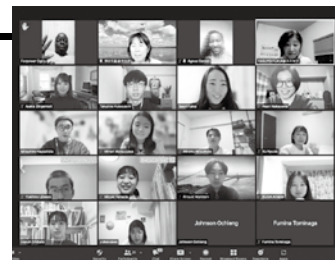
知ってほしい!スラムの寺子屋「マゴソスクール」 ～世界で羽ばたく私たちの物語～

コロナ禍も2年目を迎えた2021年5月。リアルな活動が難しい中、ユースの活動の場として、高校生・大学生のLINEオープンチャットが始まりました。そしてそのコミュニティを通じて講座の後のユースの交流で出会ったのが、ケニア在住でマゴソスクールを運営する早川千晶さん。早川さんの活動を通じ、ケニアの同世代とつながりたい、と思うようになり、『マゴコロ』チームが誕生しました。11月からの数十回を重ねたミーティング。

今回は、2022年3月13日にマゴソスクールOBOG(卒業生)といっしょに開催したオンラインイベントの様子を、メンバーを代表してお二人からレポートしてもらいました。

マゴコロが生まれたきっかけ、そしてその中で

「マゴコロ」は、今回、このイベントの企画・運営を行なっている学生有志の会です。全国からケニアの若者と交流する貴重な機会や、社会貢献への第一歩を踏み出したい大学生・高校生が集まって結成されました。イベント当日に向けマゴソスクールのOBOGクラブのメンバーと打ち合わせを重ねたり、告知用のフライヤーを作成するなど、アイデアを実現する過程をチーム一丸となって達成しました。毎週行っていたミーティングでは、今回お話ししていただいたアグネス・シンビリさん、ジョンソン・オチエンさん、ヨーク・ワガラさんと国境を越えた交流ができ、これから未来を変えていく仲間として意見を交換できました。また、忙しい中素晴らしい発表を通して多くのことを教えてくれたマゴソスクールのOBOGの皆さんや、兵庫県ユニセフ協会からの協力を通して、このような機会を頂けたこと、心から感謝しています。



イベントを終えて

国境を越えての交流は、多くのメンバーにとって初めての経験であり、貴重な機会となりました。イベント当日は少し緊張しましたが、とても価値のある時間を過ごすことができました。イベントには約200人の方々が参加してくださり、Q&Aセッションでは多くの参加者から質問を頂くことができ、うれしかったです。

彼らの発表は、この5ヶ月の間一緒に努力した成果と、これからマゴソスクールを卒業し、社会で活躍する生徒への想いが込められた素晴らしい発表でした。

今回のイベントを通じ、私たちは日本とケニアの若者たちと互いを尊重しながら、学びを深めることができました。ミーティング以外でも、WhatsAppなどでお互いに連絡を取り合い、将来の夢や希望について話し合ったり、お互いの文化について学ぶことができました。友情が深まることで、マゴソスクールへの意識が高まり、情熱を持って取り組むことができました。この交流を通して、私たちは一生の友達をつくることができました。彼らとは、ケニアと日本で会うことを約束しました。約束が実現する日を楽しみにしています。

にゅうどうゆう おおさわゆうか
(入道優、大澤佑佳)



兵庫県ユニセフ協会
ユースコミュニティ
LINE オープンチャット

Information

ユニセフのウクライナ支援について

ユニセフ「ウクライナ緊急募金」 にご協力ください

ウクライナにおいて紛争が激化してから約1カ月が経過した3月30日現在、子どもの推定人口750万人の半分以上にあたる450万人の子どものうち、200万人以上が近隣諸国に避難し、250万人が国内避難民となっています。ウクライナにおける難民危機は、第二次世界大戦以降、類を見ないスピードで拡大しており、1秒あたりほぼ1人のペースで、ウクライナの子どもの難民になっているのです。

このような状況下、ユニセフは24時間体制で支援活動を続けています。ウクライナ国内、近隣諸国に逃れた子どもたちとその家族を支えるために、3月28日現在、医薬品、医療機器、衛生キット、教育キット、

衣類、毛布、テント、栄養補助食などトラック114台分、1275トンの緊急支援物資を送っています。更に、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる「子どもにやさしい空間」を設置し、ウクライナ国内52000世帯に緊急現金給付支援を開始しました。

ユニセフと国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) は各国政府や市民社会団体と協力し、避難ルート上に子どもたちや家族への支援を行う支援拠点「ブルドット」を設置。特に親と離ればなれになって人身売買のリスクが高まっている子どもの保護に努めています。

「ウクライナ緊急募金」へのあたたかいご協力で心より御礼申し上げます。皆さまからお寄せいただいた募金は、3月は2回にわたり700万米ドル(約8億1400万円)を拠出いたしました。お寄せいただく募金は、今後も拠出を続けてまいります。
*募金の詳細はp8をご覧ください。

ユニセフ募金 Donations For Unicef

■ 通常募金

| 通信欄記載事項 | 振替口座 | 手数料 |
|-----------|---------------|-----|
| K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 | 免除 |

■ 緊急・復興募金

| | 通信欄記載事項 | 振替口座 |
|-----------|--------------------|---------------|
| ロヒンギャ難民 | ロヒンギャ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| シリア | シリア K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| アフリカ栄養危機 | アフリカ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| 自然災害 | 自然災害 K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| 人道危機 | 人道危機 K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| 新型コロナウィルス | コロナ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |
| ウクライナ | ウクライナ K1-280 兵庫 | 00190-5-31000 |

*共通口座名義：公益財団法人 日本ユニセフ協会
*郵便局窓口から専用振込用紙を使って振り込むと手数料は免除されます。専用振込用紙は事務局にありますのでご連絡ください。



いつでも
どこでも
気軽に募金

https://www.unicef.or.jp/sp/

Wish vol.67

ユニセフ兵庫ニュース Wish

2022年5月発行

発行：兵庫県ユニセフ協会

住所：〒658-0081

神戸市東灘区田中町 5-3-18
コープこうべ生活文化センター 4F

電話：078-435-1605 (平日 10:00 ~ 16:00)

FAX：078-451-9830

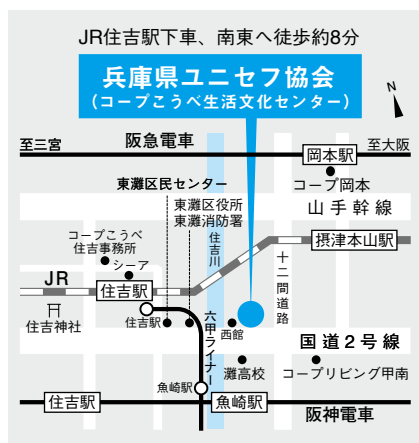
E-Mail：h-unicef@kobe.coop.or.jp

●最新の情報はホームページで

<https://office-bit.com/unicef-hyogo/>

兵庫 ユニセフ

検索



Join Us 主催イベント

各日程は変更になることがあります。
詳細はホームページをご覧ください。

参加費
無料

設立 20 周年記念 國井修さん講演会

日時 7月30日(土) 13:30-15:30

会場 兵庫県民会館 / オンライン

講師 國井修さん



国立国際医療センターなどを
経て長崎大学熱帯医学研
究所教授。2006年より国
連児童基金(ユニセフ)の上
席保健戦略アドバイザーや保
健・栄養・水衛生事業統括として活動。2013
年より世界エイズ・結核・マラリア対策基金
(グローバルファンド) 戦略・投資・効果局長。
2022年3月より公益社団法人グローバル技
術振興基金 CEO。

2022 国際理解講座① 「未来を変える、平和をつくる(仮)」

日時 6月18日(土) 13:30-15:00

会場 兵庫県民会館

講師 マーサ・ターケットさん



リベリア出身。2005年リベリア内戦中に暴行を受け歩行困難になる。2006年治療中に「国境なき医師団」の看護師だった美木朋子さんに日本へ招かれ治療や教育を受けた。支援も寄せられ、母国の高校を卒業後再来日し、立命館アジア太平洋大学に入学。今秋には大学院を修了する。

2022 国際理解講座の予定 (詳細は次号 Wish、HP などでお知らせします。)

| 日時 | テーマ・講師 | 会場 |
|-----------|--|--------------|
| 10月15日(土) | 「地球のステージ」 桑山紀彦さん(医師) | 兵庫県立尼崎の森中央緑地 |
| 11月5日(土) | トークセッション 甲斐信好さん(拓殖大学副学長)、大津司郎さん(ジャーナリスト) | 未定 |
| 12月3日(土) | 取材報告 玉本英子さん(アジアプレス・ジャーナリスト) | 未定 |

ユニセフパネル展

会場 コープこうべ生活文化センター 1階展示室

| 期間 | テーマ |
|-------------------|--|
| 6月1日(水) - 13日(月) | 「子どもの権利条約ってなあに？」 子どもの権利条約は子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約です。子どもを取り巻く環境が厳しさを増している今、子どもの権利への関心が高まっています。子どもの権利条約についてユニセフの活動とともに紹介します。 |
| 7月19日(火) - 29日(金) | 「子どもたちの緊急事態 - 自然災害と紛争 - 」(予定) 自然災害や紛争、緊急事態下で暮らす子どもたちの現状やユニセフの支援活動を紹介します。 |

新型コロナウイルス感染症の今後の動向により、変更・中止させていただく場合があります。参加ご希望の方は必ず事前にご確認下さい。

お申込み、お問い合わせ先 事務局 078-435-1605

ユニセフ出前学習会



学習会の講師派遣を行っています。
オンラインでの開催も可能です。
お気軽にお問い合わせください。



ユニセフ ひょうご サポーター

賛助会員募集中
賛助会員となって、兵庫県ユニセフ協会の活動をサポートしてください。お申し込み、お問い合わせは事務局までお願いいたします。